



空に風船を放つ児童

昭和51年の中央小学校の様子



中央小学校 創立50周年

記念フェスタ開催

2月13日、創立50周年を迎えた中央小学校で記念フェスタが開催。全校児童245人や保護者、地域の人々が集い、これまでの歴史を振り返り、新たな伝統を築くことを誓いました。中央小学校は、まだ八幡町だっ

た昭和51年4月、町内6校目の小学校として開校。以降3601人の児童がこの小学校で育ち、巣立っていきました。開会にあたり、井上篤史校長が「自分や人を大切にできる子どもたちの育成を念頭に、中央小の伝

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

統を守りながら、時代に寄り添った教育を進めていきたい」とあいさつ。

また、全学年によるステージ発表会では、歌や演奏、朗読劇に加え、スクリーンを利用した人気ゲームのパロディ劇など、多彩な演目が繰り広げられました。

最後は全員が校庭に移動し「バルーンリリース」を実施。感謝の気持ちを込めたメッセージカードとともに、風船を一齐に青空へ放つと、空高く舞い上がる様子をつまでも見上げていました。

火災想定し訓練

石清水八幡宮

2月12日、石清水八幡宮で火災を想定した防火訓練が実施され、市消防職員6人と石清水八幡宮自衛消防隊約10人が参加しました。同訓練は、昭和22年2月12日の火災で重要な文化財を失ったことを教訓に毎年この時期に実施。市消防本部と石清水八幡宮自衛消防隊の連携を密にすることにより、

文化財施設における火災防衛態勢の確立と、相互の消火技術の向上を目的としています。当日は、本殿西門付近から火災が発生したとの想定で、避難や放水訓練などを実施しました。はじめに自衛消防隊が消防署に通報、負傷者の避難誘導や、消火器を使った初期消火。通報により駆けつけた市消防職員と、出火元に向かって放水銃や消火栓につないだホースから一齐に放水するなど、文化財を火の手から守る手順や連携について確認していました。



市消防職員と八幡宮自衛消防隊が出火元に向かって放水する様子



鬼と記念撮影をする園児ら

鬼に負けるな!

南ヶ丘第二保育園で節分行事

「節分の日」の2月3日、南ヶ丘第二保育園で2歳児から5歳児の園児50人が毎年恒例の豆まきに挑戦。鬼に負けない元気な声をホールに響かせました。同行事は、園児たちに日本の伝統を身近に感じてもらおうと、市商工会青年部の協力のもと開催されています。はじめに節分に関連した歌やダン

ス、ミニゲームを楽しんだ後、和太鼓の合図とともにホールに6匹の鬼が登場。慌てて先生の後ろに隠れたり、泣きながら「鬼は外! 福は内!」と声を張り上げたりしながら懸命に鬼に立ち向かう園児の姿が見られました。最後は退治した鬼と仲直り。記念撮影やハイタッチ、ハグで鬼との別れを惜しみました。山本千福君(6)は「去年は3日間泣くぐらい怖かったけど1年で強くなった。仲直りも出来てよかった」と、嬉しそうに話していました。

今月のこの人

全国中学校駅伝3位 全国女子駅伝4位

「大切な人たちの声援が力」



所属 男山第三中学校陸上競技部 所属 令和7年12月の全国中学校駅伝3位入賞、令和8年1月皇后盃第44回全国都道府県対抗女子駅伝(全国女子駅伝)京都府代表として4位入賞に貢献。

松井暖々さん

「努力が結果に表れることが陸上の魅力。けがや不調が続いても乗り越えられるようになった」と語るのは、男山三中3年生の松井暖々さん。兄と姉の影響で、小学生からトライアスロンや橋本小学校の駅伝クラブ「チーム橋本」で記録向上の楽しさを知り、中学校でも陸上を続ける決心をしました。中学2年生の時には全国レベル

の記録をたたき出すなど、めきめきと頭角を現しましたが、チームでの全国大会出場は目標は叶いませんでした。中学3年生になり、男女そろっての全国大会出場を目標に、3年生を中心にチームを鼓舞し、対話を重ねながら練習に取り組みました。その成果が実を結び、令和7年12月に男女で全国大会に出場し、ともに入賞。

個人としても令和8年1月の全国女子駅伝に出場し、4位入賞に貢献。「仲間や先生、大切な人たちの声援が力になった」と感謝を伝えます。全国女子駅伝の候補選手の先輩にあこがれ、高校でも陸上を続ける松井さんは「しんどい練習でも、常に高い目標を持って取り組みたい」と、力強く決心を口にしていました。